



CHAPTER 5

Cisco Unity Connection 8.x のサービス クラスで制御される機能のセットアップ

Cisco Unity Connection では、ユーザがボイス メールボックスと一緒に使用可能な一部の機能（ユーザ ライセンスが必要な機能を含む）が、サービス クラス（CoS）で制御されます。COS 内の設定を更新することによって、いつでも機能を有効または無効にすることができます。実施した変更はすべての COS メンバーに反映されます。



(注)

COS に個別のライセンスが必要な機能へのアクセスが含まれている場合は、十分なライセンスが使用可能な場合にだけ、COS のメンバーにその機能を提供できます。

COS で制御される機能のセットアップに関する情報と手順については、次のセクションを参照してください。

- 「Cisco Unified Personal Communicator から Cisco Unity Connection 8.x 内のボイス メッセージへのアクセス」 (P.5-2)
- 「Cisco Unity Connection 8.x の代行内線番号」 (P.5-2)
- 「Cisco Unity Connection 8.x の発信者名確認と通話保留」 (P.5-3)
- 「Cisco Unity Connection 8.x Messaging Assistant」 (P.5-5)
- 「Cisco Unity Connection 8.x Web Inbox、Messaging Inbox、および RSS フィード」 (P.5-6)
- 「Cisco Unity Connection 8.x の削除済みメッセージへのアクセス」 (P.5-7)
- 「Cisco Unity Connection 8.x のディレクトリ一覧」 (P.5-8)
- 「Cisco Unity Connection 8.x のグリーティング長」 (P.5-9)
- 「Cisco Unity Connection 8.x のボイス メッセージへの IMAP クライアント アクセス」 (P.5-10)
- 「Cisco Unity Connection 8.x の Live Reply」 (P.5-12)
- 「Cisco Unity Connection 8.x のメッセージ録音時間」 (P.5-14)
- 「Cisco Unity Connection 8.x のパーソナル着信転送ルール」 (P.5-15)
- 「Cisco Unity Connection 8.x のプライベート同報リスト」 (P.5-17)
- 「Cisco Unity Connection 8.x の録音名と録音長」 (P.5-19)
- 「Cisco Unity Connection 8.x の規制テーブル」 (P.5-20)
- 「Cisco Unity Connection 8.x のセキュア メッセージ」 (P.5-21)
- 「Cisco Unity Connection 8.x のシステム同報リストへのメッセージ送信」 (P.5-23)
- 「単一受信トレイ (Cisco Unity Connection 8.5 以降のみ)」 (P.5-24)

- 「Cisco Unity Connection 8.x でのボイス メッセージの SpeechView 音声テキスト変換」 (P.5-25)
- 「Cisco Unity Connection 8.x の音声認識」 (P.5-27)

Cisco Unified Personal Communicator から Cisco Unity Connection 8.x 内のボイス メッセージへのア クセス

Cisco Unity Connection ユーザが Cisco Unified Personal Communicator アプリケーション内部からボイス メッセージを再生、並べ替え、および削除できるようにするには、次のタスクを指定された順序で実行します。

1. http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/tsd_products_support_series_home.html から入手可能な『*Installation Guide for Cisco Unified Personal Communicator*』で説明されているように、該当するサーバを設定して、Connection ユーザをその機能を提供する Cisco Unity Connection Administration 内の COS に割り当て、クライアント アプリケーションをセットアップします。
2. 任意の推奨事項: “Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x” 『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html で入手可能) の「Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x」の章で説明されているように、セキュア IMAP 接続を提供するよう Connection サーバを設定します。
3. Connection ボイス メッセージにアクセスするための Cisco Unified Personal Communicator の設定方法については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/tsd_products_support_series_home.html から入手可能な『*User Guide for Cisco Unified Personal Communicator*』または Cisco Unified Personal Communicator のヘルプを参照してください。

Cisco Unity Connection 8.x の代行内線番号

個々のユーザのアカウント ページで代行内線番号を指定したうえで、COS 設定を使用すれば、ユーザが代行内線番号を表示または管理できるかどうかと、ユーザが Cisco Unity Connection Messaging Assistant と電話インターフェイスを使用して個別の代行内線番号のセットを管理できるかどうかを決定できます。ユーザの携帯電話、自宅の電話、およびその他の電話に対して内線番号の入力を要求する回数を減らすように、ユーザが独自のセットを指定できるように考慮します。ユーザに独自の代行内線番号の管理を許可した場合は、管理者が指定した分に加えて、ユーザが最大 10 個の代行内線番号を指定できます。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「COS メンバーが Cisco Unity Connection Messaging Assistant で代行内線番号を表示または管理できるかどうかを指定するには」 (P.5-3)
- 「一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが Cisco Unity Connection Messaging Assistant で代行内線番号を表示または管理できるかどうかを指定するには」 (P.5-3)

代行内線番号の機能とそれを使用する理由については、「Cisco Unity Connection 8.x の代行内線番号」 (P.4-79) を参照してください。

COS メンバーが Cisco Unity Connection Messaging Assistant で代行内線番号を表示または管理できるかどうかを指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [代行内線番号 (Alternate Extensions)] の下で、次のチェックボックスのどちらかまたは両方をオンにします。
- 管理者が定義した代行内線番号の表示をユーザに許可する (Allow Users to View Administrator-Defined Alternate Extensions)
 - 自分が定義した代行内線番号の管理をユーザに許可する (Allow Users to Manage Their User-Defined Alternate Extensions)
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが Cisco Unity Connection Messaging Assistant で代行内線番号を表示または管理できるかどうかを指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [代行内線番号 (Alternate Extensions)] の下で、次のチェックボックスのどちらかまたは両方の左端にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、そのチェックボックスをオンにします。
- 管理者が定義した代行内線番号の表示をユーザに許可する (Allow Users to View Administrator-Defined Alternate Extensions)
 - 自分が定義した代行内線番号の管理をユーザに許可する (Allow Users to Manage Their User-Defined Alternate Extensions)
- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4** [送信 (Submit)] を選択します。
-

Cisco Unity Connection 8.x の発信者名確認と通話保留

COS 内の着信転送設定では、ユーザが Cisco Unity Connection Messaging Assistant または Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web ツールを (必要に応じて) 使用して、発信者名確認オプションと通話保留オプションを変更できるかどうかを指定します (ユーザがパーソナル着信転送ルールを使用可能な場合は、発信者名確認オプションと保留オプションが Messaging Assistant ではなく、Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web ツールに表示されます)。

発信者名確認オプションと保留オプションを使用すれば、ユーザは、自動応答機能またはディレクトリハンドラからユーザ電話機に転送されたコールを Cisco Unity Connection で処理する方法を指定できます。ユーザが潜在的に使用可能なオプションは、ユーザ アカウントごとの着信転送動作をどのようにセットアップしたかによって異なります（着信転送の動作については、「Cisco Unity Connection 8.x での着信転送、通話の発信者名確認、および電話の保留」(P.4-8) を参照してください）。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「COS メンバーが発信者名確認オプションと通話保留オプションを管理できるかどうかを指定するには」(P.5-4)
- 「一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが発信者名確認オプションと通話保留オプションを管理できるかどうか指定するには」(P.5-4)

COS メンバーが発信者名確認オプションと通話保留オプションを管理できるかどうかを指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [着信転送 (Call Transfer)] の下で、次のチェックボックスのどちらかまたは両方をオンにします。
- 通話の発信者名確認オプションの変更をユーザに許可する (Allow Users to Change Call Screening Options)
 - 通話の保留オプションの変更をユーザに許可する (Allow Users to Change Call Holding Options)
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが発信者名確認オプションと通話保留オプションを管理できるかどうか指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [通話転送 (Call Transfer)] の下で、次のチェックボックスのどちらかまたは両方の左端にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、そのチェックボックスをオンにします。
- 通話の発信者名確認オプションの変更をユーザに許可する (Allow Users to Change Call Screening Options)
 - 通話の保留オプションの変更をユーザに許可する (Allow Users to Change Call Holding Options)
- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4** [送信 (Submit)] を選択します。
-

Cisco Unity Connection 8.x Messaging Assistant

Cisco Unity Connection Messaging Assistant は、Cisco Personal Communications Assistant (PCA) Web サイト上で利用可能な Web ツールです。Messaging Assistant を使用すれば、ユーザは、グリーティング オプションとメッセージ配信オプションを含む Connection 設定をカスタマイズしたり、メッセージ通知デバイスをセットアップしたり、プライベート同報リストを作成したりすることができます。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「COS メンバーが Cisco Unity Connection Messaging Assistant にアクセスできるようにするには」 (P.5-5)
- 「一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが Cisco Unity Connection Messaging Assistant にアクセスできるようにするには」 (P.5-5)

任意の Cisco PCA Web ツールにアクセスするようにユーザ ワークステーション上のブラウザを設定する手順については、『*User Workstation Setup Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x) の「[Setting Up Access to the Cisco Personal Communications Assistant in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章にある「[Configuring a Web Browser to Access the Cisco PCA in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の項を参照してください。このドキュメントは、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_setup/guide/8xcucuwsx.html から入手可能です。

COS メンバーが Cisco Unity Connection Messaging Assistant にアクセスできるようにするには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
 - ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [機能 (Features)] の下で、Messaging Assistant の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use the Messaging Assistant)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが Cisco Unity Connection Messaging Assistant にアクセスできるようにするには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
 - ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [機能 (Features)] の下で、Messaging Assistant の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use the Messaging Assistant)] フィールドの左端にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、Messaging Assistant の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use the Messaging Assistant)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
 - ステップ 4** [送信 (Submit)] を選択します。
-

Cisco Unity Connection 8.x Web Inbox、Messaging Inbox、および RSS フィード

常に電話でメッセージをチェックできるわけではないユーザの便宜を図って、ユーザがコンピュータ上で Cisco Unity Connection Web Inbox (Connection 8.5 以降)、Messaging Inbox (Connection 8.0) または RSS フィールドにアクセスできるようにすることができます。

Connection 8.5 以降では、Web Inbox を使用すると、Web ブラウザで Connection ボイス メッセージの再生、作成、返信または転送、および管理ができます。ボイス メッセージは、ユーザの検索範囲内のエントリだけにアドレス指定できることに注意してください。

Connection 8.0 では、Messaging Inbox は Cisco Personal Communications Assistant (PCA) Web サイトで利用可能な Web ツールです。任意の Cisco PCA Web ツールにアクセスするようにユーザワークステーション上のブラウザを設定する手順については、『*User Workstation Setup Guide for Cisco Unity Connection*』(Release 8.x) の「[Setting Up Access to the in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章にある「[Configuring a Web Browser to Access the Cisco PCA in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の Cisco Personal Communications Assistant の項を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_setup/guide/8xcucuwsx.html から入手可能です。

RSS フィードを使用すれば、ユーザは、RSS リーダを使用してボイス メッセージを取得できます。RSS フィード用に Connection サーバを設定する方法については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』(Release 8.x) の「[Messaging in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章にある「[Configuring Access to RSS Feeds of Voice Messages in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の項を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html から入手可能です。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「[COS メンバーが Cisco Unity Connection Web Inbox、Messaging Inbox、および RSS フィードにアクセスできるようにするには](#)」(P.5-6)
- 「[一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが Cisco Unity Connection Web Inbox、Messaging Inbox、および RSS フィードにアクセスできるようにするには](#)」(P.5-7)



(注)

十分なライセンスが使用可能な場合にのみ、Web Inbox、Messaging Inbox、および RSS フィードを COS のメンバーに提供できます。

COS メンバーが Cisco Unity Connection Web Inbox、Messaging Inbox、および RSS フィードにアクセスできるようにするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ライセンス済み機能 (Licensed Features)] の下で、[Web Inbox、Messaging Inbox、および RSS フィードの使用をユーザに許可する (Allow Users to Use the Web Inbox, Messaging Inbox, and RSS Feeds)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが Cisco Unity Connection Web Inbox、Messaging Inbox、および RSS フィードにアクセスできるようにするには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ライセンス済み機能 (Licensed Features)] の下で、[メッセージング Inbox と RSS フィードの使用をユーザに許可する (Allow Users to Use the Messaging Inbox and RSS Feeds)] フィールドの左端にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、[メッセージング Inbox と RSS フィードの使用をユーザに許可する (Allow Users to Use the Messaging Inbox and RSS Feeds)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4** [送信 (Submit)] を選択します。
-

Cisco Unity Connection 8.x の削除済みメッセージへのアクセス

ユーザが削除したメッセージにアクセスできるかどうか、つまり、ユーザが削除したメッセージを恒久的に削除するかどうかを指定できます。削除済みメッセージをサーバ上に保存しておくことに問題がある場合は、ユーザが削除済みメッセージにアクセスできないようにすることもできます。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「[削除済みメッセージへのアクセスを有効または無効にするには](#)」(P.5-7)
- 「[一括編集モードで複数のサービス クラスの削除済みメッセージへのアクセスを有効または無効にするには](#)」(P.5-8)

削除済みメッセージへのアクセスを有効または無効にするには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [メッセージ オプション (Message Options)] の下で、次のように、[削除済みアイテム フォルダに保存せずにメッセージを削除する (Delete Messages Without Saving to Deleted Items Folder)] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- ユーザが削除済みメッセージにアクセスできるようにするには、このチェックボックスをオフにします。
 - ユーザが削除したメッセージを恒久的に削除するには、このチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスの削除済みメッセージへのアクセスを有効または無効にするには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [メッセージ オプション (Message Options)] の下で、[削除済みアイテム フォルダに保存せずにメッセージを削除する (Delete Messages Without Saving to Deleted Items Folder)] フィールドの左端にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、次のように、[削除済みアイテム フォルダに保存せずにメッセージを削除する (Delete Messages Without Saving to Deleted Items Folder)] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- ユーザが削除済みメッセージにアクセスできるようにするには、このチェックボックスをオフにします。
 - ユーザが削除したメッセージを恒久的に削除するには、このチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4** [送信 (Submit)] を選択します。
-

Cisco Unity Connection 8.x のディレクトリー一覧

COS 内のユーザが社内ディレクトリへの掲載を選択できるかどうかを指定します。社内ディレクトリは、ユーザと外部発信者がユーザに到達して彼らにメッセージを残すために使用する音声リストです。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「[COS メンバーが社内ディレクトリへの掲載を選択できるようにするには](#)」 (P.5-8)
- 「[一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが社内ディレクトリへの掲載を選択できるようにするには](#)」 (P.5-9)

COS メンバーが社内ディレクトリへの掲載を選択できるようにするには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ディレクトリ登録 (Directory Listing)] の下で、[ディレクトリにリストされるかどうかの選択をユーザに許可する (Allow Users to Choose to Be Listed in the Directory)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが社内ディレクトリへの掲載を選択できるようにするには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ディレクトリ登録 (Directory Listing)] の下で、[ディレクトリにリストされるかどうかの選択をユーザに許可する (Allow Users to Choose to Be Listed in the Directory)] フィールドの左端にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、[ディレクトリにリストされるかどうかの選択をユーザに許可する (Allow Users to Choose to Be Listed in the Directory)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4** [送信 (Submit)] を選択します。
-

Cisco Unity Connection 8.x のグリーティング長

該当する手順を実行して、ユーザに許可する録音グリーティング長を指定します。

- 「[ユーザ グリーティングの最大長を指定するには](#)」 (P.5-9)
- 「[一括編集モードで複数のサービス クラスのユーザ グリーティングの最大長を指定するには](#)」 (P.5-9)

ユーザ グリーティングの最大長を指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [グリーティング (Greetings)] の下で、[最大長 (Maximum Length)] フィールドに、グリーティングの最大長を秒単位で入力します。
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスのユーザ グリーティングの最大長を指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [グリーティング (Greetings)] の下で、[最大長 (Maximum Length)] フィールドの左端にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、グリーティングの最大長を秒単位で入力します。

- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4** [送信 (Submit)] を選択します。

Cisco Unity Connection 8.x のボイス メッセージへの IMAP クライアント アクセス

電話または Cisco Unity Connection Web Inbox (Connection 8.5 以降)、Messaging Inbox (Connection 8.0) から常にメッセージをチェックできるわけではないユーザの便宜を図って、ユーザがコンピュータ上の IMAP クライアント アプリケーションを使用してボイス メッセージにアクセスできるようになります。メッセージへのアクセスは、選択したオプションに応じて制限されます。

メッセージ本文へのアクセスを IMAP ユーザに許可する (Allow IMAP Users to Access Message Bodies)	ユーザは、ボイス メッセージ全体にアクセスできます。
プライベート メッセージ以外のメッセージ本文へのアクセスを IMAP ユーザに許可する (Allow IMAP Users to Access Message Bodies Except on Private Messages)	ユーザは、ボイス メッセージがプライベートとしてマークされていなければ、そのメッセージ全体にアクセスできます。プライベート メッセージの場合は、メッセージ ヘッダーにしかアクセスできません (IMAP クライアントではセキュア メッセージにアクセスできません)。このオプションでは、プライベート メッセージが WAV ファイルとして Cisco Unity Connection サーバの外部に保存されないことも保証されます。
メッセージ ヘッダーのみへのアクセスを IMAP ユーザに許可する (Allow IMAP Users to Access Message Headers Only)	ユーザは、メッセージ ヘッダーにしかアクセスできません。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「[COS メンバーに対してボイス メッセージへの IMAP クライアント アクセスを有効にするには](#)」 (P.5-11)
- 「[一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに対してボイス メッセージへの IMAP クライアント アクセスを有効にするには](#)」 (P.5-11)

IMAP クライアント アクセスのための Connection サーバ、ユーザ アカウント、およびユーザ ワークステーションの設定手順については、『[System Administration Guide for Cisco Unity Connection \(Release 8.x\)](#)』の「[Configuring IMAP Settings in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。(このガイドは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html から入手可能です)。

十分なライセンスが使用可能な場合にのみ、ボイス メッセージへの IMAP クライアント アクセスを COS のメンバーに提供できることに注意してください。

単一受信トレイ機能については、「[単一受信トレイ \(Cisco Unity Connection 8.5 以降のみ\)](#)」(P.5-24)を参照してください。

COS メンバーに対してボイス メッセージへの IMAP クライアント アクセスを有効にするには

ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。

ステップ 2 [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ライセンス済み機能 (Licensed Features)] の下で、[IMAP クライアントやシングル インボックスを使用したボイス メールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voicemail Using an IMAP Client and/or Single Inbox)] チェックボックスをオンにしてから、次のオプションのいずれかを選択します。

- メッセージ本文へのアクセスを IMAP ユーザに許可する (Allow IMAP Users to Access Message Bodies)
- プライベート メッセージ以外のメッセージ本文へのアクセスを IMAP ユーザに許可する (Allow IMAP Users to Access Message Bodies Except on Private Messages)
- メッセージ ヘッダーのみへのアクセスを IMAP ユーザに許可する (Allow IMAP Users to Access Message Headers Only)



(注) Cisco Unity Connection 8.0 では、このフィールド名は [IMAP クライアントを使用したボイス メールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voicemail Using an IMAP Client)] です。単一受信トレイ機能は Connection 8.5 以降で使用できます。

ステップ 3 [保存 (Save)] を選択します。

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに対してボイス メッセージへの IMAP クライアント アクセスを有効にするには

ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。

まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。

ステップ 2 [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ライセンス済み機能 (Licensed Features)] の下で、左端のチェックボックスをオンにして [IMAP クライアントやシングル インボックスを使用したボイス メールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voicemail Using an IMAP Client and/or Single Inbox)] フィールドを選択してから、次のオプションのいずれかを選択します。

- メッセージ本文へのアクセスを IMAP ユーザに許可する (Allow IMAP Users to Access Message Bodies)
- プライベート メッセージ以外のメッセージ本文へのアクセスを IMAP ユーザに許可する (Allow IMAP Users to Access Message Bodies Except on Private Messages)
- メッセージ ヘッダーのみへのアクセスを IMAP ユーザに許可する (Allow IMAP Users to Access Message Headers Only)



(注) Cisco Unity Connection 8.0 では、このフィールド名は [IMAP クライアントを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voicemail Using an IMAP Client)] です。単一受信トレイ機能は Connection 8.5 以降で使用できます。

- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4** [送信 (Submit)] を選択します。

Cisco Unity Connection 8.x の Live Reply

Live Reply が有効な場合、電話でメッセージを聞いているユーザは、Cisco Unity Connection で発信者に電話をかけることによって、メッセージに回答できます。COS 設定を使用すれば、ユーザが他のユーザからのメッセージに対してしか Live Reply を実行できないのか、ユーザと識別できない発信者の両方からのメッセージに対して Live Reply を実行できるのかを指定できます (識別できない発信者とは、Connection に転送されたが、内線番号の呼び出しで特定できない外部発信者またはユーザのことです)。

ユーザは、タッチトーン カンパセーションまたは音声認識カンパセーションを使用して、メッセージに対して Live Reply を実行できます。Live Reply が有効であっても、電話機のカンパセーション タイプによってはメイン Connection 電話メニューでそのことが通知されない場合があるため、この機能を有効にする場合はユーザに連絡することを検討してください (ただし、『*User Guide for the Cisco Unity Connection Phone Interface*』には記載されています)。

ユーザに対する Live Reply に関して次の留意点に注意してください。

- メッセージを残したユーザの [着信コールをユーザの電話機に転送する (Transfer Incoming Calls to User's Phone)] 設定が内線番号または別の番号を呼び出すように設定されている場合にのみ、Connection からメッセージを残したユーザの内線番号がダイヤルされます。



(注) [着信コールをユーザの電話機に転送する (Transfer Incoming Calls to User's Phone)] フィールドは、[着信転送 (Call Transfer)] ページにあります。

- メッセージを残したユーザの着信転送設定によって、ユーザ電話機が通話中の Connection の処理と Connection で着信拒否するかどうかが決まります。
- ユーザがメッセージに対して Live Reply を実行しようとしたが、発信者が電話に出られなかった場合は、そのユーザが独自の内線番号または代行内線番号からかけていれば、発信者に残された回答メッセージがそのユーザから送信されたものであることが正しく特定されます。これは、Connection によって Live Reply コールが電話システムにリリースされ、ユーザが回答メッセージを残すときに Connection にサインインできなくなるためです。

識別できない発信者に対する Live Reply に関して次の留意点に注意してください。

- Connection では、Automatic Number Identification (ANI; 自動番号識別) 文字列内に電話システムから入力された発信者番号が使用されます。Live Reply を開始するために、Connection で、ユーザのサービス クラスに関連付けられた転送制限テーブルに照らして ANI 番号がチェックされます。その番号が許可されれば、Connection で電話システムへのリリース転送が実行され、コールが折り返されます。

- Connection で ANI 文字列の先頭に付加されるプレフィクスと、プレフィクスが適用される前の ANI 文字列の最大長を設定できます。この機能は、たとえば、十分な長さの番号の先頭にトランク アクセス コードを付加するためや、電話システムでの番号処理に必要な追加の情報を提供するために使用できます。適切なダイヤル文字列を生成するために必要なその他のフォーマットは電話システムで実行する必要があります。手順については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』(Release 8.x) の「[Changing Conversation Settings for All Users in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章にある「Dial Prefix Settings for Live Reply to Unidentified Callers in Cisco Unity Connection 8.x」の項を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html から入手可能です。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「COS メンバーに対して Live Reply を有効にするには」(P.5-13)
- 「一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに対して Live Reply を有効にするには」(P.5-13)

COS メンバーに対して Live Reply を有効にするには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [メッセージ オプション (Message Options)] の下で、次のチェックボックスのどちらかまたは両方をオンにします。
- ユーザはコールを発信することによって他のユーザからのメッセージに返信できる (Users Can Reply to Messages from Other Users by Calling Them)
 - ユーザはコールを発信することによって不明な発信者からのメッセージに返信できる (Users Can Reply to Messages from Unidentified Callers by Calling Them)
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに対して Live Reply を有効にするには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [メッセージ オプション (Message Options)] の下で、次のチェックボックスのどちらかまたは両方の左端にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、そのチェックボックスをオンにします。
- ユーザはコールを発信することによって他のユーザからのメッセージに返信できる (Users Can Reply to Messages from Other Users by Calling Them)
 - ユーザはコールを発信することによって不明な発信者からのメッセージに返信できる (Users Can Reply to Messages from Unidentified Callers by Calling Them)
- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。

ステップ 4 [送信 (Submit)] を選択します。

Cisco Unity Connection 8.x のメッセージ録音時間

COS に割り当てられたユーザが他のユーザに残すことができるメッセージの最大録音時間を指定できます。デフォルト設定は 300 (5 分) です。



(注) 外部発信者が残すことができるメッセージの最大長は、ユーザ アカウントごとの [メッセージ設定 (Message Settings)] ページで設定します。詳細については、「[Cisco Unity Connection 8.x の外部発信者オプション](#)」(P.4-11) を参照してください。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「[ユーザ メッセージの最大録音時間を指定するには](#)」(P.5-14)
- 「[一括編集モードで複数のサービス クラスのユーザ メッセージの最大録音時間を指定するには](#)」(P.5-14)

ユーザ メッセージの最大録音時間を指定するには

- ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2 [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [メッセージ長 (Message Length)] の下で、最大録音時間を秒単位で入力します。
- ステップ 3 [保存 (Save)] を選択します。

一括編集モードで複数のサービス クラスのユーザ メッセージの最大録音時間を指定するには

- ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2 [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [メッセージ長 (Message Length)] の下で、[メッセージ長 (Message Length)] フィールドの左側にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、最大録音時間を秒単位で入力します。
- ステップ 3 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4 [送信 (Submit)] を選択します。

Cisco Unity Connection 8.x のパーソナル着信転送ルール

Personal Call Transfer Rules Web ツールを使用することによって、Cisco Unity Connection ユーザは、次の基準のいずれかまたはすべてに従って、直接コールと間接コールを転送または着信拒否する着信転送ルールを作成できます。

- 発信者 ID
- 時刻
- 会議スケジュール

Connection ユーザは、コールをボイスメール、別の電話番号、または一連の宛先（1 つ以上の電話番号を含む必要があり、SMS および SMTP 通知デバイスを含めることができる）に転送するように指定できます。

次の項を参照してください。

- 「[パーソナル着信転送ルール Web ツールについて](#)」 (P.5-15)
- 「[Personal Call Transfer Rules 機能の有効化と無効化](#)」 (P.5-16)

オプションで、ユーザがパーソナル着信転送ルールの基礎を Exchange 予定表や連絡先に置くことができるように Connection を設定できます。詳細とタスク リストについては、「[Cisco Unity Connection 8.x での Exchange 予定表と連絡先へのアクセス](#)」 (P.4-85) を参照してください。

パーソナル着信転送ルール Web ツールについて

Personal Call Transfer Rules は、Cisco Personal Communications Assistant (PCA) Web サイト上で利用可能な Web ツールです。ユーザによる着信転送ルールの作成を可能にすることに加えて、次の機能が Cisco Unity Connection ユーザに提供されます。

連絡先リスト	<p>Connection ユーザは、Connection ディレクトリ内の情報を補完する連絡先のディレクトリをセットアップできます。Connection では、連絡先リストを使用して着信コールが転送されます。また、Connection ユーザがスピーチ認識カンバセーションを使用している場合は、発信コールの実行にも使用されます。</p> <p>(注) ユーザは、Connection Messaging Assistant Web ツールで連絡先リストを管理します。</p>
発信者グループ	<p>Connection ユーザは、発信者をグループ分けすることによって、何度もルールを作り直さなくても 1 つのルールを複数の発信者に適用できます。発信者グループには、他の Connection ユーザや管理者定義連絡先とユーザ定義連絡先を含めることができます。</p>
個人の通知先	<p>通知デバイスに加えて、Connection ユーザは、セットアップしたルールに従って Connection から直接着信コールが転送される連絡先電話番号のディレクトリを作成できます。</p>
通知先グループ	<p>Connection ユーザは、個人の通知先と通知デバイスのグループを作成できます。コールを通知先グループに転送する場合は、誰かが電話に出るか、発信者が電話を切るか、グループ内の最後の通知先に到達するまで、Connection からグループ内の各通知先に順にコールが転送されます。Connection ユーザは、一連の通知先の順序と、各通知先で Connection が電話の応答を待つ呼び出し回数を指定できます。</p>

着信転送ルールのテスト機能	着信転送ルールのテスト機能は、ユーザと管理者が Connection での実際のルールに基づく着信コールの転送を確認するために使用されます。
全て転送ルール	全て転送ルールは、指定された期間にすべての着信コールを特定の通知先に転送する単一のルールです。このルールの作成と有効化は電話でしか行うことができません。
すべてのコールの Cisco Unity Connection への転送	Connection ユーザは、パーソナル着信転送ルールを自動的に着信コールに適用するために、すべてのコールをプライマリ内線番号ではなく、Connection に転送できます。

パーソナル着信転送ルールと Web ツールの使用方法の詳細については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user/guide/pctr/b_8xcucugpctr.html
 にある『User Guide for the Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web Tool』の「The Cisco Unity Personal Call Transfer Rules Web Tool」の章を参照してください。

Personal Call Transfer Rules 機能の有効化と無効化

該当する手順を実行して、COS 内のユーザに対してパーソナル着信転送ルール機能を有効または無効にします。

- 「COS メンバーに対して Personal Call Transfer Rules を有効または無効にするには」(P.5-16)
- 「一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに対して Personal Call Transfer Rules を有効または無効にするには」(P.5-16)

COS メンバーに対して Personal Call Transfer Rules を有効または無効にするには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [機能 (Features)] の下で、次のどちらかを実行します。
- [パーソナル着信転送ルールの使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Personal Call Transfer Rules)] チェックボックスをオンにして、パーソナル着信転送ルールを有効にします。
 - [パーソナル着信転送ルールの使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Personal Call Transfer Rules)] チェックボックスをオフにして、パーソナル着信転送ルールを無効にします。
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに対して Personal Call Transfer Rules を有効または無効にするには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [機能 (Features)] の下で、次のどちらかを実行します。

- 左端のチェックボックスをオンにして [パーソナル着信転送ルールの使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Personal Call Transfer Rules)] フィールドを選択してから、そのチェックボックスをオンにして、パーソナル着信転送ルールを有効にします。
- 左端のチェックボックスをオンにして [パーソナル着信転送ルールの使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Personal Call Transfer Rules)] フィールドを選択してから、そのチェックボックスをオフにして、パーソナル着信転送ルールを無効にします。

ステップ 3 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。

ステップ 4 [送信 (Submit)] を選択します。

Cisco Unity Connection 8.x のプライベート同報リスト

COS 設定を使用すれば、ユーザが使用可能なリストの最大数と、ユーザが Cisco Unity Connection カンバセーションまたは Connection Messaging Assistant を使用してリストを管理している場合に、各リストに追加可能なメンバーの最大数を指定できます。

次の項を参照してください。

- 「ユーザが使用可能なプライベート同報リストの最大数」 (P.5-17)
- 「プライベート同報リストあたりの最大メンバー数」 (P.5-18)

ユーザが使用可能なプライベート同報リストの最大数

COS に割り当てられているユーザごとに使用可能なリストの最大数 (99 以下) を設定できます。

Cisco Unity Connection カンバセーションと Connection Messaging Assistant の両方でこの COS 設定を使用してユーザがリストの最大数に到達したかどうか判断されますが、アプリケーションによってユーザが所有しているリスト数のカウント方法が異なります。

- ユーザが電話を使用してメンバーを追加することによって新しいリストを作成した場合、Cisco Unity Connection カンバセーションではメンバーを持つプライベート同報リストの数がカウントされ、その合計とこの設定値を比較してユーザがリスト数の上限に到達したかどうか判断されます。メンバーを持たないリスト (空のリスト) は、録音名またはテキスト名が付けられていたとしても、ユーザが所有するリストの合計には含まれません。
- ユーザが Messaging Assistant を使用して新しいリストを作成した場合、Messaging Assistant では録音名、テキスト名、またはメンバーを持つリストの数がカウントされ、その合計とこの設定値を比較してユーザがリスト数の上限に到達したかどうか判断されます。メンバーを持たないリストは、録音名またはテキスト名が付けられていなければ、合計に含まれません。

これは、ユーザが 15 リストを許可する COS に属しており、メンバーを持つ 12 個のプライベート同報リストと録音名が付けられているがメンバーを持たない 2 個のリストが存在する場合は、Messaging Assistant を使用するよりも電話を使用した方がリスト数の上限に到達するまでより多くのリストを作成できることを意味します。

- ユーザが Cisco Unity Connection カンバセーションを使用している場合は、2 個の空のリストにメンバーを追加し、1 個の新しいリストを作成するか、3 個の新しいリストを作成することによって、リスト数の上限に到達します。ユーザが 3 個の新しいリストを作成することによって上限に到達した場合は、2 個のリストが削除されるまで、2 個の空のリストにメンバーを追加できません。

- ユーザが Messaging Assistant を使用している場合は、1 個の新しいリストを作成することによってリスト数の上限に到達します。リスト数の上限に到達するかどうかに関係なく、ユーザは 2 個の空のリストにメンバーを追加できます。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「COS メンバーが使用可能なプライベート同報リストの最大数を変更するには」 (P.5-18)
- 「一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが使用可能なプライベート同報リストの最大数を変更するには」 (P.5-18)

COS メンバーが使用可能なプライベート同報リストの最大数を変更するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [プライベート同報リスト (Private Distribution Lists)] の下で、[ユーザあたりの最大リスト数 (Maximum Lists Per User)] フィールドに 1 ~ 99 の数字を入力します。
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが使用可能なプライベート同報リストの最大数を変更するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [プライベート同報リスト (Private Distribution Lists)] の下で、[ユーザあたりの最大リスト数 (Maximum Lists Per User)] フィールドの左側にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、1 ~ 99 の数字を入力します。
- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4** [送信 (Submit)] を選択します。
-

プライベート同報リストあたりの最大メンバー数

該当する手順を実行して、COS に割り当てられたユーザがプライベート同報リストに追加可能な最大メンバー数 (999 以下) を指定します。

- 「プライベート同報リストあたりの最大メンバー数を変更するには」 (P.5-19)
- 「一括編集モードで複数のサービス クラスのプライベート同報リストあたりの最大メンバー数を変更するには」 (P.5-19)

プライベート同報リストあたりの最大メンバー数を変更するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [プライベート同報リスト (Private Distribution Lists)] の下で、[リストあたりの最大メンバー数 (Maximum Members Per List)] フィールドに 1 ~ 999 の数字を入力します。
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスのプライベート同報リストあたりの最大メンバー数を変更するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [プライベート同報リスト (Private Distribution Lists)] の下で、[リストあたりの最大メンバー数 (Maximum Members Per List)] フィールドの左側にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、1 ~ 999 の数字を入力します。
- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4** [送信 (Submit)] を選択します。
-

Cisco Unity Connection 8.x の録音名と録音長

COS ごとに、ユーザに自分の名前の録音を許可するかどうかと、録音名の長さを指定します。

ユーザの声で録音された名前を聞くことは、同様の名前のユーザと発信者を区別するのに役立ちます。名前の録音が許可されている場合、ユーザは Cisco Unity Connection 電話カンパセッションまたは Connection Messaging Assistant を使用して録音を実行でき、初回の録音中にタスクを完了するように要求されます。



(注) ユーザが名前を録音しなかった場合は、Connection で登録プロセスを完了できません。

Connection ユーザが録音名を持っていない場合は、Connection でテキスト/スピーチを使用してユーザ名 (名前が Connection の管理 で入力されたかどうかによって、表示名または姓と名を連結したもののどちらか) が再生されます。ただし、録音名を持っていれば、発信者は希望する人物またはメールボックスへの到達が保証されます。ユーザ名を初回の登録時に録音しておくことを強く推奨します。それにより、発信者が名前を理解しやすくなります。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「COS メンバーが自分の名前を録音できるかどうかと名前の長さを指定するには」 (P.5-20)

- 「一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが自分の名前を録音できるかどうかと名前の長さを指定するには」 (P.5-20)

COS メンバーが自分の名前を録音できるかどうかと名前の長さを指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [録音名 (Recorded Name)] の下で、[音声名の録音を許可する (Allow Recording of Voice Name)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [最大長 (Maximum Length)] フィールドに、最大長を秒単位で入力します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーが自分の名前を録音できるかどうかと名前の長さを指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [録音名 (Recorded Name)] の下で、左端のチェックボックスをオンにして [音声名の録音を許可する (Allow Recording of Voice Name)] フィールドを選択してから、そのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [最大長 (Maximum Length)] フィールドに、最大長を秒単位で入力します。
- ステップ 4** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] を選択します。
-

Cisco Unity Connection 8.x の規制テーブル

COS ごとに、着信転送とメッセージ通知に使用される規制テーブルを指定します。指定する規制テーブルは、両方同じにすることも、それぞれ別々にすることもできます。

規制テーブルの仕組みの詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection* (Release 8.x) の「[Managing Restriction Tables in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html から入手可能です。

該当する手順を実行して、ユーザが着信転送とメッセージ通知に使用可能なメンバー数を制御する規制テーブルを指定します。

- 「着信転送とメッセージ通知用の規制テーブルを指定するには」 (P.5-21)
- 「一括転送モードで複数のサービス クラスの着信転送とメッセージ通知用の規制テーブルを指定するには」 (P.5-21)

着信転送とメッセージ通知用の規制テーブルを指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [規制テーブル (Restriction Tables)] の下で、次の手順を実行します。
- [発信 (Outcalling)] リストで、メッセージ通知に使用する規制テーブルを選択します。
 - [転送 (Transfer)] リストで、着信転送に使用する規制テーブルを選択します。
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括転送モードで複数のサービス クラスの着信転送とメッセージ通知用の規制テーブルを指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [規制テーブル (Restriction Tables)] の下で、次の手順を実行します。
- [発信 (Outcalling)] フィールドの左側にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、メッセージ通知に使用する規制テーブルを選択します。
 - [転送 (Transfer)] フィールドの左側にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、着信転送に使用する規制テーブルを選択します。
- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4** [送信 (Submit)] を選択します。
-

Cisco Unity Connection 8.x のセキュア メッセージ

COS のメンバーによって送信されたメッセージのメッセージ セキュリティを Cisco Unity Connection でどのように処理するかを決定します。次のように指定できます。

- メッセージが必ずセキュアにマークされます。
- ユーザが特別配信オプション電話メニューから該当するキーを押すことによってメッセージをセキュアにマークした場合にのみメッセージがセキュアにマークされます。
- メッセージが絶対にセキュアにマークされません。
- ユーザがメッセージをプライベートにマークした場合にのみメッセージがセキュアにマークされません (これがデフォルトです)。

管理者が指定したオプションに関係なく、ユーザはメッセージを送信するときにいつでもそれをプライベートにマークすることに注意してください。Connection で使用可能なメッセージ セキュリティ オプションの詳細については、『*Security Guide for Cisco Unity Connection*』(Release 8.x) の「[Securing](#)」

User Messages in Cisco Unity Connection 8.x」の章を参照してください。このガイドは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/security/guide/8xcucsecx.html から入手可能です。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「COS メンバーのメッセージ セキュリティを指定するには」(P.5-22)
- 「一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーのメッセージ セキュリティを指定するには」(P.5-22)

COS メンバーのメッセージ セキュリティを指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [メッセージ オプション (Message Options)] の下で、[セキュア メッセージングを必須にする (Require Secure Messaging)] リスト内の次のオプションから選択します。
- 常時 (Always) : メッセージが必ずセキュアにマークされます。
 - 設定しない (Never) : メッセージが絶対にセキュアにマークされません。
 - 選択する (Ask) : ユーザが特別配信オプション電話メニューからセキュア メッセージ オプションを選択することによってメッセージをセキュアにマークした場合にのみメッセージがセキュアにマークされます。
 - プライベート (Private) : ユーザが特別配信オプション電話メニューからメッセージをプライベートにマークした場合にのみメッセージがセキュアにマークされます。
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーのメッセージ セキュリティを指定するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [メッセージ オプション (Message Options)] の下で、[セキュア メッセージングを必須にする (Require Secure Messaging)] フィールドの左側にあるチェックボックスをオンにしてそれを選択してから、次のオプションから選択します。
- 常時 (Always) : メッセージが必ずセキュアにマークされます。
 - 設定しない (Never) : メッセージが絶対にセキュアにマークされません。
 - 選択する (Ask) : ユーザが特別配信オプション電話メニューからセキュア メッセージ オプションを選択することによってメッセージをセキュアにマークした場合にのみメッセージがセキュアにマークされます。
 - プライベート (Private) : ユーザが特別配信オプション電話メニューからメッセージをプライベートにマークした場合にのみメッセージがセキュアにマークされます。
- ステップ 3** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。

ステップ 4 [送信 (Submit)] を選択します。

Cisco Unity Connection 8.x のシステム同報リストへのメッセージ送信

該当する手順を実行して、ユーザがシステム同報リストにメッセージを送信できるかどうかを指定します。

- 「COS メンバーがシステム同報リストにメッセージを送信できるかどうかを指定するには」 (P.5-23)
- 「一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーがシステム同報リストにメッセージを送信できるかどうかを指定するには」 (P.5-23)

COS メンバーがシステム同報リストにメッセージを送信できるかどうかを指定するには

- ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
- ステップ 2 [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [メッセージ オプション (Message Options)] の下で、[システム同報リストへのメッセージ送信をユーザに許可する (Allow Users to Send Messages to System Distribution Lists)] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- ステップ 3 [保存 (Save)] を選択します。

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーがシステム同報リストにメッセージを送信できるかどうかを指定するには

- ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
- ステップ 2 [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [メッセージ オプション (Message Options)] の下で、左端のチェックボックスをオンにして [システム同報リストへのメッセージ送信をユーザに許可する (Allow Users to Send Messages to System Distribution Lists)] フィールドを選択してから、必要に応じて、そのチェックボックスをオンまたはオフにします。
- ステップ 3 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
- ステップ 4 [送信 (Submit)] を選択します。

単一受信トレイ (Cisco Unity Connection 8.5 以降のみ)

単一受信トレイ機能を使用すると、Cisco Unity Connection と Exchange のメールボックスにあるボイス メッセージが同期されます。ボイス メッセージは、電子メールやファクスと共にユーザの Outlook の [受信トレイ (Inbox)] フォルダに表示されます。また、ユーザの Connection メールボックスにも表示されます。

サービス クラスで単一受信トレイを有効にすることは、単一受信トレイを設定する手順の 1 つです。詳細については、『*Unified Messaging Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.5 and Later) の「[Configuring Cisco Unity Connection 8.5 and Later and Microsoft Exchange for Unified Messaging](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/unified_messaging/guide/85xcucumgx.html から入手可能です。

次の、該当する手順に従ってください。

- 「[COS メンバーに対してボイス メッセージへの単一受信トレイ アクセスを有効にするには](#)」 (P.5-24)
- 「[一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに対してボイス メッセージへの単一受信トレイ アクセスを有効にするには](#)」 (P.5-24)

COS メンバーに対してボイス メッセージへの単一受信トレイ アクセスを有効にするには

ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。

ステップ 2 [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ライセンス済み機能 (Licensed Features)] の下で、[IMAP クライアントやシングル インボックスを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voicemail Using an IMAP Client and/or Single Inbox)] チェックボックスをオンにします。



(注) [IMAP クライアントやシングル インボックスを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voicemail Using an IMAP Client and/or Single Inbox)] チェックボックスの下にあるオプション ボタンは、IMAP クライアントのアクセスのみに適用できます。

ステップ 3 [保存 (Save)] を選択します。

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに対してボイス メッセージへの単一受信トレイ アクセスを有効にするには

ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。

まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。

ステップ 2 [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ライセンス済み機能 (Licensed Features)] の下で、左端のチェックボックスをオンにして [IMAP クライアントを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voicemail Using an IMAP Client)] フィールドを選択します。



(注) [IMAP クライアントやシングル インボックスを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voicemail Using an IMAP Client and/or Single Inbox)] チェックボックスの下にあるオプション ボタンは、IMAP クライアントのアクセスのみに適用できます。

ステップ 3 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。

ステップ 4 [送信 (Submit)] を選択します。

Cisco Unity Connection 8.x でのボイス メッセージの SpeechView 音声テキスト変換

SpeechView 機能が有効になっている場合は、Connection でサードパーティ製の外部文字変換サービスを使用してボイス メッセージがテキストに変換されます。

SpeechView を使用するには、ユーザがボイス メッセージの文字変換を提供するサービス クラスに属している必要があります。サービス クラスのメンバーは、Connection メッセージにアクセスするように設定された IMAP クライアントを使用して、メッセージの文字変換を表示できます。元のボイス メッセージは文字変換されたテキスト メッセージに添付されます。ユーザは、オプションで、Connection から文字変換が電話機または外部電子メール アドレスに送信されるように SMS または SMTP 通知デバイスを設定できます。

外部の文字変換サービスと通信するように Connection サーバを設定する手順については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』(Release 8.x) の「[Configuring Transcription \(SpeechView\) in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。このガイドは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html にあります。

該当する手順を実行して、特定のサービス クラスのメンバーに対して文字変換を有効にします。

- 「[COS メンバーに対してボイス メッセージの SpeechView 文字変換を有効にするには](#)」(P.5-25)
- 「[一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに対してボイス メッセージの SpeechView 文字変換を有効にするには](#)」(P.5-26)

SpeechView はライセンスされた機能のため、COS のすべてのメンバーが使用可能な十分なライセンスがあることを確認してください。

COS メンバーに対してボイス メッセージの SpeechView 文字変換を有効にするには

ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。

ステップ 2 [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ライセンス済み機能 (Licensed Features)] の下で、[標準 SpeechView 音声テキスト変換サービスを使用する (Use Standard SpeechView Transcription Service)] オプションを選択して、標準トランザクション サービスを有効にしてから、以下のいずれかのオプションを選択します。

- セキュア メッセージを文字変換しない (Do Not Transcribe Secure Messages) : セキュア メッセージが外部文字変換サービスに送信されません。

- セキュア メッセージの文字変換を許可する (Allow Transcriptions of Secure Messages) : セキュア メッセージが外部文字変換サービスに送信されます。ユーザは、セキュア メッセージの文字変換の表示をサポートするクライアントを使用して文字変換を表示できます。ただし、ユーザは、文字変換を受信するように通知デバイスを設定できません。
- 通知デバイスへのセキュア メッセージの文字変換の送信を許可する (Allow Transcriptions of Secure Messages to Be Sent to Notification Devices) : セキュア メッセージが外部文字変換サービスに送信されます。ユーザは、文字変換を受信するように SMS および SMTP 通知デバイスを設定できます。ただし、ユーザは、IMAP クライアントまたは ViewMail を使用してセキュア メッセージの文字変換を表示できません。



(注) 同様に、[専門的音声テキスト変換サービスを使用する (Use SpeechView Pro Transcription Service)] オプションを選択して専門的音声テキスト変換サービスを有効にすることができます。

ステップ 3 [保存 (Save)] を選択します。

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに対してボイス メッセージの SpeechView 文字変換を有効にするには

ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。

まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。

ステップ 2 [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ライセンス済み機能 (Licensed Features)] の下で、[標準 SpeechView 音声テキスト変換サービスを使用する (Use Standard SpeechView Transcription Service)] オプションを選択して、標準トランザクション サービスを有効にしてから、以下のいずれかを選択します。

- セキュア メッセージを文字変換しない (Do Not Transcribe Secure Messages)
- セキュア メッセージの文字変換を許可する (Allow Transcriptions of Secure Messages)
- 通知デバイスへのセキュア メッセージの文字変換の送信を許可する (Allow Transcriptions of Secure Messages to Be Sent to Notification Devices)



(注) 同様に、[専門的音声テキスト変換サービスを使用する (Use SpeechView Pro Transcription Service)] オプションを選択して専門的音声テキスト変換サービスを有効にすることができます。

ステップ 3 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。

ステップ 4 [送信 (Submit)] を選択します。

Cisco Unity Connection 8.x の音声認識

音声認識カンパセッションへのアクセスを使用すれば、ユーザは、電話機のキーを押すのではなく、コマンドを発音することによって Cisco Unity Connection を操作できます。ユーザがこの機能を使用できるようにするには、次のタスクを指定された順序で実行します。

1. ユーザまたはユーザ テンプレートを音声認識機能にアクセスするためのライセンスを提供するサービス クラスに割り当てて、その機能を使用できるようにします。次の、該当する手順に従ってください。
 - 「COS メンバーに音声認識機能にアクセスして使用するためのライセンスを許可するには」(P.5-27)
 - 「一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに音声認識機能にアクセスして使用するためのライセンスを許可するには」(P.5-27)
2. 各ユーザ アカウントまたはテンプレートが音声認識カンパセッションに割り当てられるように指定します。手順については、「タッチトーン カンパセッションと音声認識カンパセッション」(P.4-17) を参照してください。

十分なライセンスが使用可能な場合にのみ、音声認識を COS のメンバーに提供できることに注意してください。

COS メンバーに音声認識機能にアクセスして使用するためのライセンスを許可するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、変更または新規作成する COS を探します。
 - ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ライセンス済み機能 (Licensed Features)] の下で、[詳細機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features)] チェックボックスをオンにしてから、[音声認識の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Voice Recognition)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

一括編集モードで複数のサービス クラスの COS メンバーに音声認識機能にアクセスして使用するためのライセンスを許可するには

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration の [サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ページで、該当する COS チェックボックスをオンにして、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。

まとめて編集するサービス クラスが複数の検索ページに表示される場合は、最初のページで該当するすべてのチェックボックスをオンにしてから、次のページに移動して該当するすべてのチェックボックスをオンにします。同様の操作を該当するすべてのサービス クラスを選択するまで繰り返します。次に、[一括編集 (Bulk Edit)] を選択します。
 - ステップ 2** [サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ページの [ライセンス済み機能 (Licensed Features)] の下で、左端のチェックボックスをオンにして [詳細機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features)] フィールドを選択してから、そのチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** 左端のチェックボックスをオンにして [音声認識の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Voice Recognition)] フィールドを選択してから、そのチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 4** 必要に応じて、一括編集タスク スケジュール フィールドを設定して、後日または後で実行する一括編集処理のスケジュールを作成します。
 - ステップ 5** [送信 (Submit)] を選択します。
-

